

平成30年度在宅療養連携会議 第2回全体会議 会議録

1. 開催日時 平成30年7月31日（火）午後7時10分～8時00分

2. 開催場所 ウェルシティ市民プラザ3階 第1研修室

3. 出席者 【構成員】 千場 純、磯崎 哲男、西山 和彦、塚本 久美、豊田 茂雄、
山岸 千花、上田 尚、柏木 孝子、諏訪部 弘之、亀田 浩司、
向井 洋子、佐野 美智子、吉野 桂、小貫 朗子、田中 知己、
川名 理恵子

（敬称略、名簿順）

【オブザーバー】 横須賀市社会福祉協議会 稲葉 抄子、小山 由紀
健康福祉財団 小澤 充
福祉部介護保険課 鈴木 享

【事務局】 健康部地域医療推進課 竹本 豊、箕崎 真吾、小知和 千弘

【傍聴者】 2名

4. 開 会 座長の司会で開会した。

5. 傍聴者・配布資料の確認、報道機関取材の紹介

事務局から、欠席者の報告、オブザーバーの紹介、傍聴人数の報告、および配布資料の確認を行った。

〔資料一覧〕

次第

- 資料 1 平成30年度在宅療養シンポジウム開催要領（案）
- 資料 2 - 1 平成30年度多職種合同研修会報告資料（参加者人数）
- 2 - 2 平成30年度多職種合同研修会報告資料（アンケート集計結果）
- 資料 3 多職種の連携状況に関するアンケート結果（対象：ケアマネ）
- 資料 4 - 1 平成30年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー企画書
- 4 - 2 平成30年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー基礎講座アンケート結果
- 資料 5 平成30年度在宅医療・介護連携推進事業進捗状況
- 資料 6 - 1 平成30年度病院出前セミナー企画書
- 6 - 2 平成30年度病院出前セミナーチラシ（案）
- 資料 7 - 1 平成30年度在宅医同行研修企画書

- 7 - 2 平成30年度在宅医同行研修チラシ
資料 8 平成30年度センター連携拠点事業進捗状況
資料 9 平成30年度ブロック連携拠点事業実績

6. 議題

1) 各専門部会からの報告

(1) 広報啓発検討専門部会 Aチーム

「みんなで支える在宅療養シンポジウム」について、川名部会長から資料1に基づき報告があった。

〔説明要旨〕

今年度のシンポジウムの目的は、在宅はもちろん、終の棲家としての施設での「平穏死」について考える機会としたい。

日時・会場は、1月27日（日）13：00～16：00にベイサイド・ポケットとする。

全体のテーマは「穏やかな旅立ちのために」とし、第1部の基調講演の講師は、特別養護老人ホームの配置医である石飛幸三氏の内諾を得ている。著書「口から食べられなくなったらどうしますか「平穏死」のすすめ」をもとに、「終の棲家で平穏死」について、お話しいただく予定。

第2部のパネルディスカッションのテーマは、「平穏に旅立つための支援と準備」とする予定。

また、基調講演が市外の講師であるため、市内の事例を紹介する場とする。

パネリストは、施設配置医、看取りを行っている特養老人ホームの看護師、臨床宗教師（チャプレン）、行政職から横須賀市地域医療推進課の合計4名にお願いし、「平穏に死を迎えるための取り組み事例」を発表いただく予定。

特養配置医及び特養常勤看護師は検討中。臨床宗教師は（福）日本医療伝道会にお願いをできる感触を得ている。行政職からは、これからの人口構造の変化等のデータを示しながらお話しをするということで私が地域医療推進課長として担当します。コーディネーターは千場医師に内諾をいただいた。

引き続き、Aチームで企画を詰めていくこととする。

(2) 連携手法検討部会 Bチーム

磯崎部会長から資料2-1 「平成30年度多職種合同研修会報告資料（参加者人数）」、資料2-2 「平成30年度多職種合同研修会報告資料（アンケート集計結果）」に基づき報告があった。

〔説明要旨〕

①多職種合同研修会

6月21日（木）19：00～21：00 に多職種合同研修会を開催した。

最終参加者は、170人であった。（資料2-1）

アンケートは149人から得た。（資料2-2）

Q2の参加回数は、3割の方が初めて参加していることが分かった。割合も前回とほとんど差が見られなかった。

Q3の研修内容の満足度と比較しても、初めての方にも満足度が高く、全体でも「とても満足」「まあ満足」を合わせて90%で、満足度は高かった。

Q4の多職種の連携については、「とても進んでいる」「まあ進んでいる」を合わせて、前回は82%であったが、今回は74%に落ちてしまったが、「連携が進んでいる」という実感があるということが分かった。

これを研修参加回数と比較すると、研修参加回数が多い方が、連携を実感していることが分かる。

経験年数と比較すると、年数が多い方が連携を実感している傾向がわかるが、年数によっては、「あまり進んでいない」の割合が高いところも見られる。

経験を重ねることで、改めて認識が変わることもあるかと思う。

自由意見は、お手元の資料に記載のとおりである。

②多職種みんなでコーディネートのための対策

5月に行った、ケアマネジャー対象の連携状況に関するアンケートの集計結果（資料3）を基にBチームで協議した。

アンケートの回答率は非常に高く、約8割となった。

内容としては、研修に「参加している」「参加したことがある」を合計すると8割を超えて、非常に参加率が高いことが分かった。

「参加したことがない」の理由としては、経験年数が浅いことや、時間が取れない、日時が合わないといったものが高かった。

自由意見欄では、連携が進んでいるという意見がある一方で、医療職との連携が取り辛いという意見も多数あった。

その中でも、「医師に介護保険について知ってもらいたい。」という要望を受けて、多職種連携セミナーとして、医療職向けの介護保険セミナーの開催を検討することとなった。

開催時期、対象者、内容等は、今後のBチームで検討したいと考えている。

（3）研修・セミナー検討専門部会（Cチーム）

諏訪部部会長から資料 4 - 1「平成30年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー企画書」資料4 - 2「平成30年度ケアマネジャーのための在宅療養セミナー基礎講座アンケート結果」に基づいて説明があり、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

①ケアマネジャーのための在宅療養セミナートピック講座について【資料4-1】

今年度の企画について、検討と確認を行った。

目的は例年通り、「ケアマネジャーを対象に市民の在宅療養を支援するために必要な医療知

識を学ぶセミナーを開催する」こととしている。

主催は横須賀市で、共催は横須賀市健康福祉財団、企画はCチームで行っている。

基礎講座は6月14日（木）に実施した。アンケートは【4－2】を参照。満足度が高い結果となっている。また、昨年に続き、セミナーの開催時間を平日の午後としたことから満足度が上がっている。これは、業務として参加しやすいということが考えられる。

トピック講座について、全3回で実施する。すでに、第1回目を開催した。

第1回は、テーマ「緩和ケア」とし、7月24日（火）に実施。

講師は、横須賀共済病院 坂本がん看護専門看護師にお願いした。

78名の参加があり、うち15名は横須賀・三浦二次医療圏内の市外のケアマネジャーであった。

第2回は、テーマ「神経難病疾患」とし、10月24日（水）に開催予定。

講師は、横須賀共済病院 神経内科部長 入岡医師にお願いしている。

第3回は、テーマ「心肺蘇生講習会」とし、1月24日（木）に開催予定。

講師は、横須賀市消防局救急課職員にお願いしている。

受講者には、消防局より普通救命講習修了証を発行される予定である。

昨年度同様、今年度も平日午後の開催とする。

②介護職のための在宅療養セミナーについて

当セミナーは、横須賀市健康福祉財団が主催し、企画をしている。Cチームでは、助言を行っている。

第1回テーマ「食中毒と脱水」。第2回テーマ「心肺蘇生講習会」。第3回テーマ「人工透析」とし介護職対象に開催予定。

③かかりつけ医セミナーについて

かかりつけ医セミナーという枠の中で、何か研修が企画できないか、今後、Cチーム内でも検討していく。

〔質問、意見等〕

①多職種合同研修会について

川 名：連携手法検討部会が企画している多職種合同研修会は毎年継続して実施している。今年はグループワークの発表がグループ毎に違い興味深かった。

アンケート結果も出ているが、本会議の構成員の中で、出席してくれている方の意見を聞きたい。

諏訪部：ケアマネジャーの意見として、多職種の方と直接顔をつなげることが満足度の高い研修となっている。テーマが多職種の方が一緒に検討できる内容だと満足度が高い。

座 長：興味のあるテーマにすれば良いということ。

豊 田：当日、座っていた場所により司会をすることになったが、自分が司会をやると仕切ってしまってあまり良くないため、ケアマネジャーに司会をやってもらったほうが良いと

感じた。グループ発表の中で、「今後も病院にずっといる」という意見があったのには驚かされた。

座 長：どういう経緯があったのかはわからないが、病院でも療養型がある。急性期ではなく、療養型への入院かという意味があったのかもしれない。

磯 崎：司会として参加した。グループが多く、全グループが発表すると、発表だけでとても時間を要してしまっている。深く話しあえる時間を取ることを目的として、グループワークに大半の時間を配分し、事例の顛末だけ例示することも1つの方法だと考えている。

座 長：グループワークは目的がある。今までは多職種が集まって話し合うことが目的だった。ディスカッションを実施するならグループワークの時間を長くとる必要がある。何かの成果を得るなら、絞ったやり方も必要。「今回はこれを得たから、次はこうしよう」と積み重ねがないと、毎回同じで終わってしまう。この研修会は1年に1回であるため、お互いに意見を言い合うという体験をしてもらってマナーとかを身に着ける研修と割り切るのも良いと感じた。

塚 本：開催側の委員が常に巡回し、それぞれ違う面白い意見を出しているグループをピックアップして発表してもらおうと凝縮感がでて良い。

川 名：今回はそれぞれ意見が違った。そのためか、帰り際に、実際はどうなったのか聞かれたので、もやもや感が残った参加者もいたようだった。

実際の事例を元に脚色しているため、実際はどうなったのか知りたかった人が多かったのだと思う。

いろいろな職種の人と知り合う、話し合う、顔をつなげる。これが一番の目的で始めた研修会。この目的が達成されるようグループワークを長くするのも良い。

座 長：次回以降、架空の部分を無くすことで現実の事例とし、結果どうなったかということ为例示できれば、過去の事例でも良いのではないかな。

参加した人が自分の考えと比較でき満足感を得ることができると思う。

実際にあった事例を2例集めることが必要となる。

川 名：今回も実際の事例を少しアレンジしたものでグループワークを行ってもらった。

座 長：実際はどう関わったかということが言えるのはアレンジのない事例となる。実際はどうだったかを出せると良い。

②ケアマネジャー対象の連携状況に関するアンケート集計結果について

事務局：今後について、この市内ケアマネジャー全員を対象としたアンケートをもっと深く掘り下げていくべきなのか、別の職種を対象にアンケートを取るべきなのかどうか。

今回の結果として医療職を対象とした介護保険のセミナーをやるという結論が出たため、連携手法検討部会で話し合っていく。

これらについて意見をいただきたい。また、新たな連携手法についても意見をいただきたい。

座 長：以前やったアンケート結果と比較することはできるのか。

事務局：部分的には設問が重なるが、対象が違うため初めてに近いものとなっている。

2) 平成 30 年度在宅医療・介護連携推進事業捗状況報告

事務局から資料 5～9 に基づき、各種事業実施状況について説明を行い、特に異議なく承認された。

〔説明要旨〕

① 病院職員対象在宅療養出前セミナー（資料 6－1、6－2）

昨年度に引き続きの事業だが、今年度も医師会から 9 名の先生に講師として、ご協力いただくこととなった。今年度の実施状況は、1 件、7 月 24 日に浦賀病院で実施し 38 名（医師 3 名、看護師 9 名、事務 15 名、MSW 1 名、リハ科 9 名、放射線科 1 名）参加いただいた。また、申込を 1 件、パシフィックホスピタルからいただいている。本セミナーについて、7 月 17 日付で浦賀病院、パシフィックホスピタル含め市内 11 病院にチラシの配布により制度を周知している最中である。申し込み状況を見て、案内をしていく。

② 在宅医同行研修（資料 7－1、7－2）

今年度も医師会から 12 名の先生に講師として、協力いただくこととなった。また、今年度の実施状況は 1 件、1 名の方に研修を受けていただいた。

③ まちづくり出前トーク

市の職員が申込者のもとへ伺って話をする出前トークについては、7 月までに 11 団体に実施し、約 284 人の方の参加があった。加えて、8 月以降、3 件の申し込みを受けている。

④ 在宅療養センター連携拠点事業進捗状況（資料 8）

1. 多職種合同研修会については、先程 B チーム部会長から報告があったが、6 月 21 日に実施した。

2. 在宅医療・介護情報共有システム及び 3. 在宅患者入院支援登録システムの各運用状況は、資料のとおり。

4. 街角在宅医療講座については、医師会の医師が講師となって町内会等に伺うもの。7 月 12 日までに 3 回実施され、144 名の参加があった。

5. 「よこすかりんくパスポート」は、1,000 部の増刷を予定している。

6. 病院長会議は 10 月の開催予定。

7. 市民公開講座は、平成 31 年 2 月 23 日（土）に、長尾クリニック 院長 長尾和宏氏を講師として招き、開催を予定している。

⑤ 在宅療養ブロック連携拠点事業進捗状況（資料 5 の 5）

在宅療養ブロック連携拠点事業進捗状況について、資料 9 に平成 30 年度の各ブロック拠点の活動についてまとめている。

⑥ その他

多職種連携セミナーについて、ケアマネジャー対象の連携状況に関するアンケート結果から、「医師に介護保険について知ってもらいたい。」という要望を受けて、多職種連携セミナーとして、

医療職向けの介護保険セミナーの開催を検討していく。開催時期、対象者、内容等は、今後、Bチームで検討していく。

〔質問、意見等〕

塚 本：まちづくり出前トークは開始してから何年目になるか。

川 名：地域医療推進課としては平成 24 年度から開始しているため、今年度 7 年度目となる。

塚 本：まちづくり出前トークに行くのは町単位か。また、まちづくり出前トークに伺ったところを記載した地図を作ることができないか。

事務局：町内会や自治会の単位が多い。

以前、地図を作成したことがあるが、見栄えの問題で今は作成しておらず、代わりに一覧表を作成している。年間 15 件程度訪問するが、西地区の実績はあまりない。

塚 本：西地区は、西地区のみで完結している印象がある。包括の方や多職種の方から西地区はサービスを導入し辛いと聞くことがあるため積極的にアプローチを図る必要がある。

事務局：西地区は行政が説明に行かなくても、地元の医師が回ったり、訪問看護師から聞いた、個人的なつながりで話を聞いている人がいると聞いている。

まちづくり出前トーク訪問先の地図はできたら作成することとしたい。

座 長：まちづくりに関連するが、地域医療推進課は在宅医療を推進するためのトークなのか。これは地域包括ケアシステムにつながらないのか。

川 名：つながっている。

事務局：まちづくり出前トークは横須賀市の全部局で実施している。市役所全体で約 150 のテーマがあるうち、地域医療推進課は 3 テーマで実施。

座 長：まちづくりと福祉・医療が重なる分野が出てきたときにまちづくり出前トークの求める側のテーマが重なることはないのか。

事務局：まちづくり出前トークのテーマは市が設定しているが、申込者の要望に応じて臨機応変に変えている。関連部局と一緒に説明に伺うこともある。

座 長：出前トークについて、医師会が実施しているものはアンケートを取っている。市はアンケートを取っているのか。

川 名：アンケートは取っていない。地域の会合にお邪魔させていただいているため、時間的に余裕がなく取っていない。

座 長：医師会はこれまでにおよそ 3,000 件のアンケートを取れている。啓発の普及度も多少参考になる。要望やアイデアを拾うチャンスともなるかと思うので、取ると良いのではないか。

田 中：まちづくり出前トークは実施後に報告書を作成している。質疑は報告書に記録している。在宅でも質疑は報告書に記録している。

座 長：まちづくり出前トークは他自治体も実施しているのか。

事務局：どこでもやっているかという、そうではない。

座 長：独自性がある取組であるということか。これだけやっているのも効果はこれから出るか。地域活動をしている人が増えているので、これから出前トークも増えるのではない

か。

川 名：話は少し戻るが、ケアマネセミナーは、ケアマネジャーに知識として持っていて欲しい内容で実施している。Cチームのケアマネアンケートの結果、ケアマネセミナーに初めて参加する人は全体の1/3となっている。基礎講座は業務で参加している人が多い。また、点数になるのか受講証明書を必要とする人が多い。

ケアマネジャーは、医療・介護連携の必要性など学ぶ機会はあるのか。

諏訪部：あまり機会がないのであるとありがたいと思う。

川 名：これだけ新しい人が多いのだから、たとえば、これからの人口構造や高齢者の増加の状況や高齢者を支えるために多職種連携が必要であることを学ぶという科目があっても良いかと思う。多職種合同研修会も最初は、まず、大学の先生から多職種連携の重要性について学び、グループワークをやっていたが、参加者が徐々に慣れてきたため、講義の時間をグループワークに振り向け、グループワークだけの研修になった。

諏訪部：短い時間でも講義の時間があると良いかもしれない。

座 長：セミナーや研修会は何もしなければマンネリ化してしまうため工夫が必要である。

小 貫：新任ケアマネ研修で講義も入ったものを実施している。ただ、医療連携まで行っていない。

川 名：そういう所に入れてもらっても良いかもしれない。

3) 第3回全体会議の日程について

構成員内で日程調整を行い、11月9日（金）19：00からの開催が決定した。

7. 閉 会 座長の宣言で閉会した。

この後専門部会に分かれて会議を行った。

以上